

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-22

法政大学文学部紀要総目次(41号～50号)

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学文学部紀要

(巻 / Volume)

52

(開始ページ / Start Page)

85

(終了ページ / End Page)

90

(発行年 / Year)

2006-03-06

法政大学文学部紀要総目次 (41号～50号)

第41号 (1995年度)

「自己同一性 (self-identity)」と倫理学	星 野 勉
「燕京文学」と「中国文学」 — 淪陷区・北京からの光芒 —	立 石 伯
『おもろさうし』における助詞ガの表記	間 宮 厚 司
ポーの宇宙論と錬金術 (三) 第二章 錬金術 (その一)	宮 川 雅
『社会教育』=領域概念説の歴史的再検討の必要性和その視角	笹 川 孝 一
SBM (学校を基礎にした経営) のシカゴ・スタイル	高 野 良 一
フランス第三共和政期の植民地教育政策研究 (II)	
— フランス領西アフリカを中心に —	古 沢 常 雄
水準測量成果に表現された緑色凝灰岩地域における沖積平野の地殻運動	市 瀬 由 自
身体遊びと観念連合(1)	
— ジョン・ロックの『人間知性論』から見た『トリストラム・シャンディ』 —	泉 谷 治
もう一つの目・もう一つの声 — Lillian Hellman の戯曲における女性の役割 —	黒 川 欣 映
コピュラ構文再考	佐 川 誠 義

第42号 (1996年度)

カントにおける国家設立と法概念	菅 沢 龍 文
祭祀の文法 — 上代語マスについて —	坂 本 勝
『万葉集』における形容詞の表記 (I)	間 宮 厚 司
ポーの宇宙論と錬金術 (四) 第二章 錬金術 (その二)	宮 川 雅
仏学会に関する基礎的研究 (I) — 東京仏学校・東京仏語学校など —	安 岡 昭 男
渤海時代の銚帯金具	伊 藤 玄 三
借項について — 清朝地方財政の一齣 —	山 名 弘 史
「メディア論」と情報教育の政治性	坂 本 旬
森田療法の「不問」技法と治療者・患者関係についての考察	長 山 恵 一
富士山南麓地下水に与えた渇水 (1994～1995年) の影響	小 寺 浩 二
水準測量成果に表現された緑色凝灰岩地域における沖積平野の地殻運動	市 瀬 由 自
第二言語習得におけるインターアクションの役割(1)	椎 名 美 智
「強者の利益」プラトン『国家』第一巻におけるトラシュマコス説と その背後にある思潮 — 解釈の基本的視点 —	奥 田 和 夫

第43号 (1997年度)

驚異と崇高 — ウィトゲンシュタインとハイデガーにおける感情の問題 —

牧 野 英 二

『女殺油地獄』の作劇法

日 暮 聖

『万葉集』における形容詞の表記〈Ⅱ〉

間 宮 厚 司

ポーの宇宙論と錬金術 (五) 第二章 錬金術 (その三)

宮 川 雅

仏学会に関する基礎的研究 (Ⅱ) — 仏学会の活動/会員名簿 —

安 岡 昭 男

《自分さがし》をめぐる思春期葛藤と学校

— 今日の「中学校問題」についての研究ノート(1) —

児美川 孝一郎

従日本的経験看成人教育実践・研究的共有方法的東亞共同研究

笹 川 孝 一

学生の学習にたいする意欲と目的意識の再建の筋道

佐 貫 浩

日本のフレネ教育運動 — 1930~1990 —

古 沢 常 雄

河川の流域特性に関する水文地理学的— 考察

小 寺 浩 二

独立革命期の愛国劇

黒 川 欣 映

第44号 (1998年度)

理性と歴史 — 「合理性」をめぐる諸問題 —

星 野 勉

カントの法思想における戦争と平和

菅 沢 龍 文

和歌に詠まれた農作業

天 野 紀代子

『万葉集』九番歌の訓釈

間 宮 厚 司

ポーの宇宙論と錬金術 (六) 第二章 錬金術 (その四)

宮 川 雅

ポーの宇宙論と錬金術 (七) 第三章 組み合わせ術としての構成の哲学

宮 川 雅

障害の受容について

小 野 純 平

選好行動の統計的比率三分の一 仮説の検討

柴 田 博

地域活性化と農村リゾート

— 岡山県新見市における「農村型リゾート整備事業」を例として —

片 岡 義 晴

中日雷神傳説比較研究

張 愛 萍

ケリヤ河流域ウイグル族の集落と住居

伊 藤 玄 三

第45号 (1999年度)

『万葉集』における形容詞の表記〈Ⅲ〉

間 宮 厚 司

ポーの宇宙論と錬金術 (八) 第四章 ピクチャレスク、原子、引用、テキスト

宮 川 雅

子どものファンタジーとテレビゲーム

坂 本 旬

《アイデンティティ・ゲーム》としての子どもたちの逸脱・問題行動

—「校内暴力」から「新しい荒れ」へ—

児美川 孝一郎

ナルシズムと身体 —ジェンドリンによるナルシズム概念批判(3)—

末 武 康 弘

校歌にみる空間認識 —新潟県北部地域の事例から—

佐 分 利 博
中 俣 均

「風伯」から「風祝」へ —中日風神の比較研究—

張 愛 萍

Toward a Mentalistic Modeltheoretic Semantics: An Initial Sketch

石 川 潔

ヤンキー登場 —建国初期の風習喜劇 The Contrast 論—

黒 川 欣 映

日本語の形容詞の項構造について

佐 川 誠 義

欲望の増大 —プラトン『国家』第八卷第一章—

第九卷第三章 (543A—576B) に関する研究ノート (I) —

奥 田 和 夫

小谷洋一教授追悼 弔辞

法政大学 文学部長

中 野 榮 夫

三 浦 徳 弘

小谷さんを偲んで

宮 川 雅

略歴・著作目録

第46号 (2000年度)

正当化と契約論

—ロールズ、サンデル、ドゥオーキンの契約論をめぐる論争について—

星 野 勉

カントの『ヘルダー論評』 —人間学による歴史哲学—

菅 沢 龍 文

身体と空間の神話学 —古事記の「ト」をめぐる—

坂 本 勝

『万葉集』における形容詞の表記 (IV)

間 宮 厚 司

障害受容とその評価について

—障害受容理論および障害受容の評価法に関する再検討—

小 野 純 平

現代の若者のアイデンティティ形成と家族 —事例研究を通して—

児美川 孝一郎

宮城県登米町におけるスレート屋根景観の形成と保存

山 口 不二雄

中日山神についての比較研究

張 愛 萍

アメリカ文学とオカルト —史的素描 (1920年代まで) —

宮 川 雅

『フィネガンズ・ウェイク』の知の方位(1)

結 城 英 雄

記述と同定 —指標語を巡る哲学的諸問題2—

中 釜 浩 一

第47号 (2001年度)

芸術と真理 —ガダマーの芸術理論—

星 野 勉

「貧福論」の考察 —経済社会と徳—

日 暮 聖

万葉歌 (2597番と3159番) の解釈	間 宮 厚 司
古活字版『太平記』書誌解題稿	小 秋 元 段
富士信仰儀礼と江戸幕府の富士講取締令	
一呪医的信仰儀礼としての江戸市中への勧進をめぐる身分制的社会秩序の 動揺をめぐる一	澤 登 寛 聡
現代の若者のアイデンティティ形成と学校 一事例研究から一	児美川 孝一郎
アメリカにおけるボランティアリズムと学校改革	高 野 良 一
構造政策下における地域農業の変容 一愛知県渥美を事例に一	片 岡 義 晴
阿武隈高地、仙台平におけるカルスト地形	漆 原 和 子
The Representation of 「rtr」	川 崎 貴 子
PF and Transformation	石 川 潔
蜷川幸雄と鈴木忠志のインターカルチュラル演出法	ジョン・M・ブrouカリング
『フィネガンズ・ウェイク』の知の方位(2)	結 城 英 雄
身体遊びと観念連合 (II)	
一ジョン・ロックの『人間知性論』から見た『トリストラム・シャンディ』一	泉 谷 治
スピノザにおける人間精神論の認知的働きと動機的働きの統一	木 島 泰 三
欲望の増大 一プラトン『国家』第八卷第一章一	
第九卷第三章 (543A—576B) に関する研究ノート (II) 一	奥 田 和 夫

第48号 (2002年度)

定言命法によるカントの私法論 一叡智的占有とウルピアヌスの定式一	菅 沢 龍 文
万葉歌 (212番と215番) の解釈	間 宮 厚 司
法政大学文学部創立八〇周年記念シンポジウム	
「二一世紀の知とこころと人間」	勝 又 浩
	ジョン・M・ブrouカリング
	金 山 喜 昭
	吉 村 浩 一
	牧 野 英 二
児童期における家庭のソーシャルサポートが家庭及び学校の社会的スキルに 与える影響について	渡 辺 弥 生
会話過程への視覚的イメージの視点による影響に関する時系列的な検討	
一発話プロトコルと記述プロトコルの比較一	福 田 由 紀
情報教育におけるコミュニケーション概念と「自己創出性」	坂 本 旬 子 村 上 郷 子

小さなチャータースクールの現実と可能性	高野良一
農村活性化と「女性起業」の展開 — 岩手県二戸市を事例に —	片岡義晴
カラドン遺跡の仏教寺院	伊藤玄三
[α 、 β]	河崎貴子
Weighted Constraints in Phoneme Perception	石川 潔
How Spouses Used to Address Each Other: A Historical Pragmatic Approach to the Use of Vocatives in Early Modern English Comedies	椎名美智
『フィネガンズ・ウェイク』の知の方位(3)	結城英雄
正しい人の快樂 — プラトン『国家』第九巻における快樂論の意味 —	奥田和夫
一般性制約について(1)	中釜浩一

第49号 (2003年度)

ディルタイ哲学の現代的意義 — 歴史的理性批判の射程 —	牧野英二
ニーチェからヘーゲルへ	山口誠一
『おもろさうし』の動詞再考	間宮厚司
柳宗元詩の擬人法	黒田真美子
嵯峨本『史記』の書誌的考察	小秋元段
ポーの宇宙論と錬金術 (九) 第五章 ポーと現代 —	
ゴシック、ロマン主義、オカルト、近代芸術についての覚え書 (その一)	宮川 雅
ソ連崩壊・解体論をめぐって — その序論的覚書	加納 格
刺激語の特性が第二言語音声における音節の知覚に与える影響	田嶋圭一
潜在記憶における処理水準効果	藤田哲也
大学生における黙読・音読・暗誦に対する態度の比較	福田由紀
歴史なき心理学科で歴史を想う — 城戸幡太郎と矢田部達郎 —	吉村浩一
昼間部と夜間部の大学生における睡眠・覚醒状態の比較検討	高橋敏治
地球温暖化への再考	佐藤典人
アメリカ固有の素材を求めて	
James Nelson Barker の The Indian Princess, Superstition 論	黒川欣映
ブラヴィッツの真概念に関する一考察	安東祐希

第50号 (2004年度)

和辻哲郎の「風土」論 — ハイデガー哲学との対決 —	星野 勉
幻影の哲学者ニーチェ	山口誠一
カントの「心の哲学」	近堂 秀

ミルヤ、アマミヤ、オボツの語源	間 宮 厚 司
ポーの宇宙論と錬金術 (十) 第五章 ポーと現代 — ゴシック、ロマン主義、オカルト、 近代芸術についての覚え書 (その二) — (エドガー・ポーと宮川淳の余白に)	宮 川 雅
外国語音声における音節の知覚：音響的要因と音韻的要因の比較	田 嶋 圭 一
記憶の自動的利用における処理水準効果 — 過程分離手続による検討 —	藤 田 哲 也
大学生における黙読・音読・暗誦に対する態度の比較 その2 — 音読と暗誦についての自由記述を中心に —	福 田 由 紀
社会的スキルおよび共感性を育む体験的道德教育プログラム — VLF (Voices of Love and Freedom) プログラムの活用 —	渡 辺 弥 生
乾孝が目指した映像論文「心理学」 — ビデオ作品『知覚』を中心に —	吉 村 浩 一 近 藤 智 嗣
バンコクの市場	片 岡 義 晴
ポーランドのヴェトナム人 — 移行期社会におけるインフォーマル・マーケットの空間的パターンの変化 —	山 本 茂
$\lambda \rho$ 計算における正規化定理の証明	安 東 祐 希